



登壇者プロフィール

氏名：竹内 雅樹

所属：東京大学工学系研究科
電気系工学専攻

役職：修士2年

埼玉県所沢市および神奈川県横浜市出身。慶應義塾湘南藤沢高等部を卒業後、慶應義塾大学理工学部に入學し、ALS患者が失う前の声を使用できるようにするプロジェクト「マイボイス」の手伝いを行ったことで、音声および福祉工学に興味を持つ。大学卒業後は理化学研究所言語発達研究センターに約1年技術スタッフとして勤務。その後東京大学の修士課程に入學後、Syrinxプロジェクトを始めて現在に至る。

団体概要

2019年7月に、銀鈴会と呼ばれる喉頭摘出者のコミュニティに足を運んだことでスタートした学生プロジェクトである。2019年9月にToday To TexasでSXSWの出展権を獲得した後、「Microsoft Imagine Cup 世界TOP3」「James Dyson Award 国際TOP20」「GUGEN2020 大賞」「WIRED Creative Hack Award ソニー賞」を受賞し、現在はユーザーテストを行うためのプロトタイプ開発に勤しんでいる。将来的には起業も検討している。

応募団体 Syrinx

失われた声を取り戻すデバイス Syrinx



世界では毎年30万人以上ががんなどの理由で声を失っている。声を失った方々が従来使用してきたデバイスが、口パクで声を生成するEL(電気式人工喉頭)である。しかし、常に片手で喉にデバイスを押し当てなければならず、さらに生成される声も機械的でヒトの声からは遠く、日常生活での使用は避けられてきた。そこで、私たちが開発したのがSyrinxだ。従来のELの課題

を解決するために、首に巻くハンズフリー型のウェアラブルデバイスで、ヒトに近い声を再現し、そして公共の場で使用しても悪目立ちしないスタイリッシュな意匠性を有している。Syrinxを必要としているユーザーに届けるための製品化を行い、声を失った人々が日常生活で何不自由なく話すことのできる社会を実現することを目指している。

■ CUSTOMIZABLE DEVICE COLOR

